

令和5年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを端的に要約することができず、課題に正対して書くことができない。 要点をおさえて自分の考えを簡潔に話すことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章にし「はじめ」「中」「終わり」の各部分に分けて書くことを意識させる。 事実と感想と意見を区別して書けるように、書いた文章を見直させながら、それをどのように配置するのかを教師と一緒に検討する中で文章構成を修正し、要点を絞れるようにする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 要点をおさえて自分の考えを簡潔に話すことができない。 定規、分度器、コンパス等を正しく用いて作図をすることができない。 解放の理解が不十分で、既習事項の定着が十分ではない子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話す時間の目安を定め、聞き手の表情や反応を見ながら、簡潔に話すことを指導する。 器具を用いる場面では、毎回正しい使い方を確認するようにする。操作技能が足りない児童には、個別指導の場を設けていく。 手順をスモールステップで指導し、児童自身が説明しながら計算や作図等ができるようにする。eライブラリ等で前学年の学習内容を復習する機会を増やす。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象を正しい用語や表現を使って、説明することが苦手である。 観察・実験結果を基に、「何がいえるのか」を考察することが苦手である。 原理や理由を十分に理解していないため、器具を違う場面で正しく用いることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい用語や表現を繰り返し指導・確認すると共に、絵や図を用いた視覚的な指導も行い、自然現象に対する概念を科学的なものに更新させる。 「結果の見通し」の場面を設け、どんな結果が出たらどんなことがいえるか事前に検討しておく。 原理や理由と合わせて、器具の正しい使用を指導する。器具を用いる場面では、毎回正しい使用方法を児童と共に確認し、振り返れるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から個々の情報を捉えることはできるが、「何がいえるのか」を考察することが苦手である。 方角のイメージが不十分のため、方位を用いた説明が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察力を育てるために、資料から読み取ったことを共有し、考察できることをまとめる場面を意識して取り入れる。 方角について地図、教室、他教科などでも繰り返し触れ、方位を抵抗なく使うことができるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の技能 <ul style="list-style-type: none"> 歌う意欲はあるが、響きのある声で歌うことや腹式呼吸が十分に出来ていない。 リコーダーの運指、適切な息づかいやタンギングが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動で、発声について常に指導し定着するようにする。歌唱の場面でも、響きのある声や体の使い方について指導する。 リコーダーは、教え合いの時間や個別指導の時間を増やす。タンギングは、常に指導していく。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○関心意欲態度 <ul style="list-style-type: none"> 意欲関心をもって取り組んでいるが、扱う材料や道具に偏りがある場合があるので、幅広く学習をさせていきたい。 ○知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具やかなづちをはじめとした、材料や用具を適切に扱う力を身に付けさせていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が関心・興味をもてる題材や発想や表現の楽しさを味わえるような題材を提示していく。導入時には ICT 教材も有効活用する。 新しい材料・用具を使用する際は、ICT 機器を活用し丁寧に指導する。また、材料や用具に児童が触れる時間を確保し、材料や用具を十分に扱えるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通した運動経験が不足しており、諸感覚の発達や体の基礎的な動きが身に付いていない。 腕で体を支持したり、姿勢を保持したりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用して休み時間にも運動に取り組みせ、運動を習慣化できるようにする。 日常的に姿勢を整えるように、繰り返し指導する。また、体づくり運動を単元の最初に行い、体を支える力を養う。家庭でもできる体を支える運動（プランク等）を指導し、日常的に取り組む習慣づくりを図る。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。